

# NHO NEW WAVE

vol.43 2021 Spring

独立行政法人  
国立病院機構  
National Hospital Organization

初期研修医・専攻医のためのコミュニケーション情報誌  
NHOニューウェーブ

発行：独立行政法人 国立病院機構 令和3年 春号



仙台医療センター  
救命救急部長・  
救命救急センター長  
山田 康雄

仙台医療センター  
院長  
上之原 広司

## HOSPITAL

### 新潟病院

## PROGRAM

#1 初期研修  
プログラムの紹介  
高崎総合医療センター  
総合診療科部長 佐藤 正通

#2 小児科 専門研修  
プログラムの紹介  
四国こどもとおとなの医療センター  
総合周産期母子医療センター  
副部長・新生児内科医長 久保井 徹  
成育内科系診療副部長・小児感染症内科医長・  
小児科医長 岡田 隆文

## RESEARCH

初期研修医アンケート  
第三弾



熊本医療センター  
救命救急センター長・  
救命救急部長  
原田 正公

熊本医療センター  
院長  
高橋 毅

SPECIAL

# 震災とNHO

仙台医療センター  
熊本医療センター

～ 東日本大震災から10年、熊本大地震から5年 ～

# 震災とNHO ~ 東日本大震災から10年、

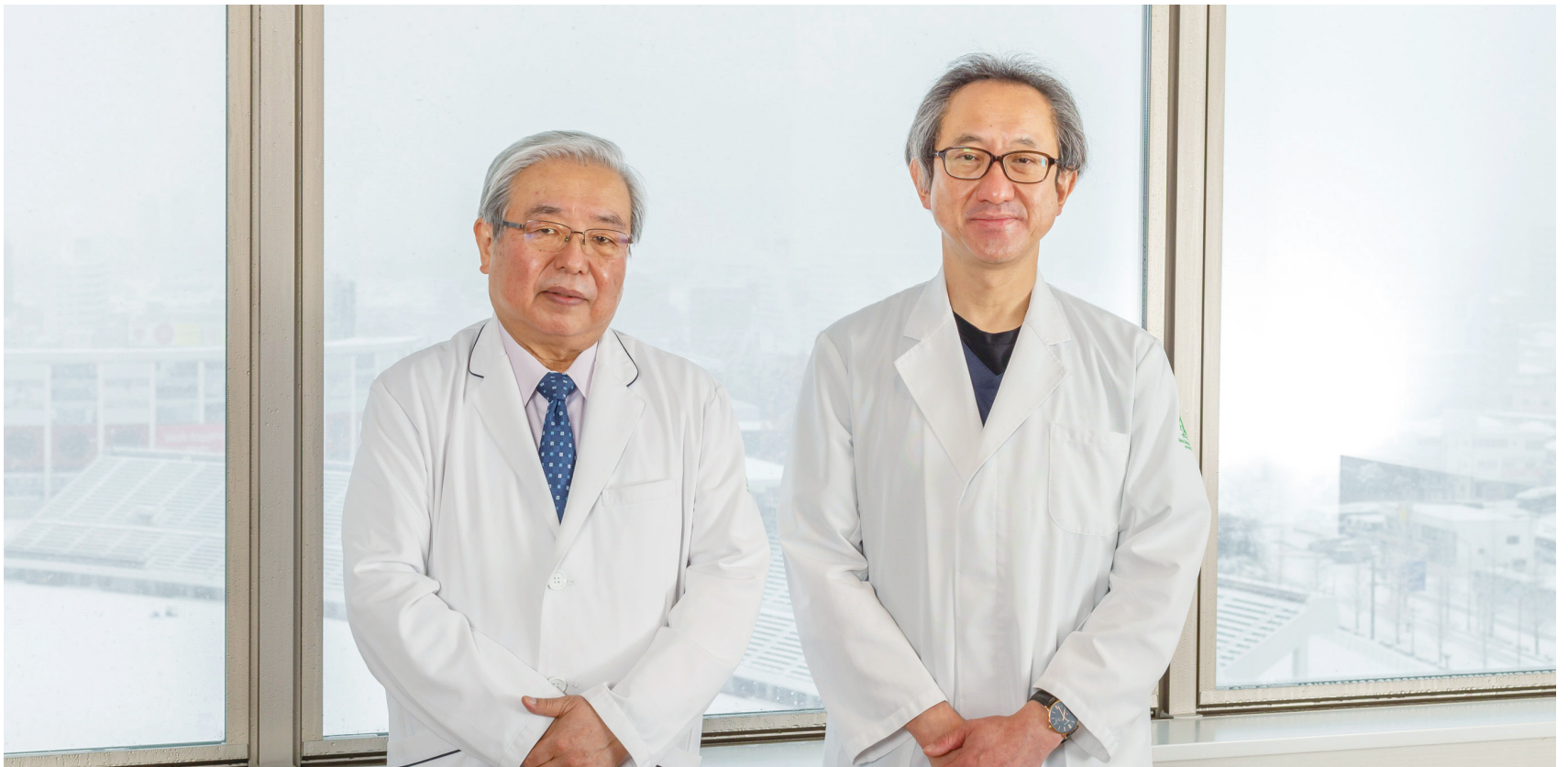
INTERVIEW.

## 東日本大震災から10年

### 国立病院機構

# 01

## 仙台医療センター



### 東日本大震災の経験を活かし、 災害医療により強い病院へ

仙台医療センター 院長 上之原 広司

震災当時、私は救急部の責任者として、トリアージの指示や災害医療対策本部の立ち上げなど、院内体制を整えると同時に、当院は「基幹災害拠点病院」として宮城県の災害医療を支援する役割を担っていたため、県内の保健医療活動の

総合調整やDMATの参集拠点・活動拠点本部としての準備を進めるなど、県の災害医療を支える拠点施設としての対応にあたりました。

当院では阪神淡路大震災の後から災害訓練を重ね、医療計画や備蓄など災害への準備が整っていたこともあり、震災時は比較的スムーズな対応ができたと思っています。

また、早い段階からNHOのDMATが被災地に入り、その後次々と、全国のNHOから医療班や看護師の人的支援があったことも震災を乗り切ることができた大きな要因だと感じています。



災害医療に対応していく過程で、当然、新たな問題や職員たちの不安、ストレスも出てきますが、心掛けていたことは、情報伝達や情報共有による意思の統一と、頑張っている職員たちがしっかり休みを取れるような勤務ローテーションを徹底したことです。そうした状況のなか、NHOからの人的支援は本当に助かりました。

当院は災害拠点病院として、病院の災害訓練だけではなく、県や市が実施する訓練や、洋上救急など海上保安庁の訓練などにも職員たちが積極的に参加しています。

また、東日本大震災の経験を踏まえ、2019年に移転開設した新病院は、救命救急センターを30床に増床・ERの拡張を行い、屋上ヘリポートを増設しました。整備予定の宮城県広域防災拠点に隣接する県

基幹災害拠点病院として、災害医療により強い病院を目指していく考えです。研修医や若手医師の方々にとっても、災害医療に充実強化した病院で研鑽を積むことは、医師としての大きな糧となる大変意義のあることだと思います。



#### PROFILE

出身地 : 神奈川県  
出身大学 : 東北大学(1982年卒)  
宝物 : 家族  
座右の銘 : 有言実行

## 熊本大地震から5年 ～

### 急性期の対応だけでなく、 その先を見据えた災害医療を

仙台医療センター  
救命救急部長・救命救急センター長 山田 康雄

私は宮城県の災害医療コーディネーターであったことから、震災時は病院での災害対応とともに、航空搬送拠点臨時医療施設(SCU)での医療統括や、県災害対策本部医療班での調整業務に従事していました。東日本大震災では、住民の方々が家と町を失い、物資が不足するなかで長期間にわたる避難所の生活を強いられました。被災地へは全国のNHO病院から医療班を派遣頂き、当院は宮城におけるNHO医療班の活動拠点として機能し、2カ月間にわたって展開された東松島市以南の沿岸地域における保健医療支援の一翼を担いました。NHO医療

班とNHO派遣コーディネーターは巡回診療のみならず、地域の保健所などと協同し、住民の方々に不足している生活物資などをチェックして行政に上げ、医療の視点から地域の生活基盤を守る支援も行いました。阪神淡路大震災では、建物の倒壊などによる直接的な重症外傷やクラッシュ症候群、熱傷で亡くなられた方が多かったため、災害医療の急性期に対応できるDMATが組織されました。しかし東日本大震災では、津波によって地域インフラそのものが広範に失われたことの影響が極めて大きかったことから、急性期災害医療だけでなく、被災者の方々の



健康な生活の確保までを見据えた長いスパンの保健医療支援が必要であることを身に染みて感じました。

震災時の診療手技としては、骨盤後腹膜ガーゼパッキング(PPP)が鮮烈に記憶に残っています。重症骨盤骨折の患者さんがショック状態で搬送されてきましたが、血管造影装置ダウンのため通常行っているカテーテル動脈塞栓術が行えず、減多に行わないPPPのみを単独で施行して止血・救命できました。平時には当たり前前の医療が災害時にはできないことを痛感し、災害医療を実践するためには多様な切り札を持つておくことが大切だと肝に銘じました。また、実災害で適切な対応を行うためには何よりも災害訓練を反復しておくこと、そして職員たちがモチベーション高く災害医療に臨むことができるよう、職員たちの生活を守り、休息を確保して、常に万全な状態で災害と闘うことができる体制づくり

が、災害医療にとって非常に大切であると感じました。

当院は宮城県の基幹災害拠点病院であり、地域、そして県の救命救急医療を支える最前線の病院として、高水準の災害・救急対応能力を学ぶことができる環境です。当院で研鑽を積むことは医師としての大きな力になると確信しています。



#### PROFILE

出身地 : 山梨県  
出身大学 : 東北大学(1987年卒)  
宝物 : 家族  
座右の銘 : 朝が来ない夜はない

#### INTERVIEW.

## 02 熊本大地震から5年 国立病院機構 熊本医療センター

### 積み重ねてきた災害訓練と地域連携、 そしてNHOであることが大きな助けに

熊本医療センター 院長 高橋 毅

熊本地震を経験して改めて感じたことは、災害訓練がいかに大切だということです。震災時は30分ほど停電しましたが、職員たちはパニックに陥ることなく各々の取るべき災害時の行動が自然とできていました。

災害訓練は阪神淡路大震災が起

きた1995年から毎年実施していましたが、東日本大震災を機に、災害時の厳しい状況を想定した訓練を行ってきました。

熊本地震では院内エレベーターが停止してしまい、1階にある調理場から5階以上にある病棟へ患者





さんの食事を運べなくなったり、患者さんが病棟に上がれない事態が起きましたが、同じ状況を想定した災害訓練を実施していたため、誰に指示されなくとも自然と職員が階段に並び、手渡しで配膳をしたり、患者さんを担架に乗せて病棟に上げるなど、訓練通り誰一人慌てることなく対応することができました。

また、熊本地震ではガスが止まったことを踏まえ、電気、ガス、水道などの重要なライフラインを維持するためにそれぞれ2つの供給源を確保するなど、災害時にも業務の中断や病院機能が停止しないよう事業継

続計画 (BCP) を策定し、更なる災害対策の強化に向け取り組んでいます。

熊本地震によって機能停止した熊本市民病院の入院患者さんを最も受け入れたのが当院です。臨時のベッド数を確保するために病院周辺の有床診療所の先生方をお願いをして、病状が落ち着いていた入院患者さんを引き受けていただきました。こうした対応が迅速にできたのは、長年にわたり地域の医療機関と連携を密にし、「顔の見える関係」が構築できていたからです。災害医療は近隣の医療機関との協力なしでは対応できません。長い時間をかけて築いた「顔の見える関係」があったからこそ協力を得ることができ、迅速な対応が実現できたと感じています。

さらに、NHOというグループ病院であることも震災時の大きな助けと

なりました。震災直後から人、物資の支援があり、当院には1,300人程の職員がいますが、院内で水や食糧に困ったことは全くありませんでした。

職員たちの家はライフラインが止まっており、怪我をしていたり、家族や家が大変な状況になっているにも関わらず、「困っている人、患者さんを助けたい!」という強い想いで病院に出ていました。小さなお子さんのいる職員は病院に出たくとも子どもの世話をしてくれる施設が震災で閉鎖されてしまったため、早急に簡易的な保育所を院内につくり対応しました。こうした災害時にも医療を継続させる取り組みは、今般のコロナ禍においても活かされています。

あらゆる事態を想定した負荷を加えた災害訓練を実施していたこと、長年にわたって密な地域連携を

築いていたこと、そしてNHOというグループ病院であったことが災害を乗り切ることができた要因であると思います。そして何より、大変な状況でも病院に出て対応にあたった職員たちの意識の高さは本当に尊敬できることですし、当院の大きな誇りであり、病院としての強さだと感じています。



### PROFILE

出身地 : 熊本県熊本市  
出身大学 : 宮崎医科大学 (1985年卒)  
宝物 : 仲間  
座右の銘 : みんなで頑張ろう



## 災害医療、救急医療に強い病院で 医師として成長する意義

熊本医療センター  
救命救急センター長・救命救急部長 原田 正公

熊本医療センターの診療の大きな柱の一つが救急医療 (3次救急) です。普段から他科と密な連携を取りながら、多彩な患者さんを診ている救急医療は災害医療と親和性がとても高く、救急医は災害時であっても普段通りの実力を発揮しやすいため、熊本地震の際も救急医が全体のまとめ役として対応にあたりました。

災害医療や救急医療はセーフティネットとして日本で重要な医療であるにも関わらず、救急医が増えていない現状があります。救急医療には医師としての基本がたくさん詰まっており、多彩な患者さんを診療しながら、自分の得意分野を見つけ、専門を深掘していくという楽しさもあります。また、救急医療と集中治療はオーバーラップする部分が多く、多くの救急医は集中治療医でもあります。治療が難しい患者さんが助かったときの達成感や喜び

もひと際大きく、とてもやりがいのある診療科です。

急病の患者さんの初期対応をし、適切な診療科に相談したり、救命処置を行ったりすることは医師としての基本です。災害医療、救急医療に強い病院である当院でなら、幅広い知識や技術の習得、迅速で柔軟な対応ができる能力、そして人間性にも優れた医師へと成長することができるでしょう。



### PROFILE

出身地 : 宮崎県  
出身大学 : 熊本大学 (2002年卒)  
宝物 : 家族  
座右の銘 : なんとなかなる

### 国立病院機構 新潟病院



### 未知の問題、課題を突破できる、 国際的にも活躍できる医師へ

新潟病院 院長 中島 孝

当院は、特定機能病院でもなく、急性期病院でもありませんが、内科、小児科、外科、脳神経内科などの地域医療や、重症心身障害などの難病医療に関する高度な専門医療を行う医療機関であり、診療だけでなく、教育・研修・研究においても非常に優れた病院であることが

特徴です。

医師は未知の問題や課題を解決できる能力も必要です。当院では臨床教育はもちろん、大学院教育のサポートも充実しており、臨床と研究を一つの病院で両立できるため、さまざまな問題、課題を突破できる力も獲得することができます。医薬品

や医療機器の承認審査、ロボットスーツHALの实地研究などにも携わってきた私自身の知識、ノウハウも惜しみなく提供し、研究の実用化や医薬品をデザインできるような医師を育てることができると自負しております。

また、当院では、学会や勉強会への参加は、海外であっても旅費や参加費を病院が支給するなど、教育、研修への投資も惜しみません。

土地環境も素晴らしく、海の幸、山の幸と全ての食が美味しく、柏崎市には「ミシュランガイド」に載っている店がイタリアンや和食と複数あります。夏はマリンスポーツ、冬はスキーと楽しめますし、自分を見つめることができる自然豊かな落ち着いた環境も大きな魅力です。

給与面が充実していることも魅力であり、モチベーション高く働きながら、国際的にも通用する医師へと成長することができます。当院でなら、あなたの医師人生を豊かなものにできるでしょう。



#### PROFILE

出身地 : 新潟県新潟市  
出身大学 : 新潟大学 (1983年卒)  
宝物 : モノ(物)にはこだわりはなく、コト(事)にこだわっています。ストーリーや価値観を大切にしています。  
座右の銘 : 認識は存在を上回る



#### 国立病院機構 新潟病院

所在地 〒945-8585  
新潟県柏崎市赤坂町3-52  
WEB <https://niigata.hosp.go.jp>

病床数 **350** 床 診療科数 **11** 科

[診療科目]  
内科、脳神経内科、小児科、外科、整形外科(入院患者のみ対応)、脳神経外科、リウマチ科、放射線科、リハビリテーション科、歯科(入院患者のみ対応)、心療科

外来患者数 **194.8** 名/日  
救急外来患者数 **5.63** 名/日  
入院患者数 **329.6** 名/日  
救急車搬送患者数 **1.22** 名/日

#### 新潟病院のある街

新潟病院のある柏崎市は新潟県中越地方の西端にあり、日本海に面し、佐渡弥彦山国定公園に指定されている。新潟病院の前方には米山、後方には日本海、柏崎港を臨み、隣には柏崎市民の憩いの場である赤坂山公園があるなど、風光明媚なロケーションに位置する。冬は雪山ヘスキー、夏は海水浴と、新潟ならではの四季折々の自然を楽しみながら、充実した暮らしを送ることができる。

#### 3D プリンタ人工呼吸器 × 医師の声

### 世界初、「3Dプリンタ人工呼吸器」実用化への挑戦

新潟病院 臨床研究部医療機器イノベーション室長・内科医長 石北 直之

私が開発した「3Dプリンタ人工呼吸器」とは、原料のABS樹脂があり、製図データを受け取ることができれば3Dプリンタで容易に作製できるもので、既にNASAとの共同研究により宇宙ステーション内での動作試験に成功した実績を持っています。場所を選ばないため、発展途上国でも使用できますし、最近では新型コロナウイルスによる人工呼吸器の不足問題などがあるため、早急な実用化が期待されています。

NHOは全国的な大きい組織であって、臨床研究で多くの患者さんを救うというポリシーに賛同し、私はNHOに籍を移しました。また、研究成果を世に出せていないことはゼロと同じだと思い悩んでいたときに、医薬品や医療機器の薬事承認、ロボットスーツHALの实地研究など、経験に長けている当院の院長、中島孝先生から「その研究の実用化を一緒に目指さないか」と声をかけていただきました。

新潟病院に移り、中島先生の下で研究に取り組んだことで「3Dプリンタ人工呼吸器」の研究開発や宇宙プロジェクトを大きく前進させることができました。

研修医のみなさんには、診療の現場における課題を「仕方がない」と諦めるのではなく、信念を貫き、行動を起こせる人になってほしいと思います。信念を貫くことで応援してくれる人が増え、協力者が見つかれば道は拓けます。さらに、良き指導者のもとで仕事をするのも非常に大切であり、大きな成長と成果を生み出してくれるはず。私も良き指導者のお陰で、研究の実用化に向けて着実に前に進むことができます。みなさんがびびりするような研究開発を次々と出していきますので、ぜひ期待してください。



#### PROFILE

出身地 : 群馬県渋川市  
出身大学 : 岩手医科大学 (2004年卒)  
宝物 : 宇宙ステーションで作られた人工呼吸器  
座右の銘 : 神は細部に宿る 用の美

# PROGRAM

## #1 初期研修プログラムの紹介

国立病院機構 高崎総合医療センター

### 自分らしさと、目標とする診療科が見つかる充実した2年間に

高崎総合医療センター 総合診療科部長 佐藤 正通



#### 高崎総合医療センターの 初期臨床研修について——

当院は全30診療科が揃う総合病院であり、乳腺・甲状腺センター、消化器病センター、放射線治療センター、画像診断センター、心臓・脳血管カテーテルセンター、救命救急センター（3次救急医療）の開設や、神経内科と脳神経外科が連携した脳卒中治療、NICUを完備

した周産期医療、高度ながん治療を提供するがん診療連携拠点病院、そして多くの紹介患者さんを受け入れている地域医療支援病院であり、幅広く豊富な症例を診ることができます。

このような環境のなか、ほぼ全ての症例をファーストタッチすることで鑑別診断力や臨床推論を鍛えることができ、3年目にどの専門科に進んでも、そこで求められる最低限の診療レベルを習得できるため、進路の選択肢も大きく広げることができるでしょう。

また、一人ひとりの患者さんに最良の医療を提供するためには幅広い知識や技能だけでなく、患者さんの想いや生活背景にもアセスメントできるコミュニケーション能力や人間力も重要です。2年間を通して多くの患者さんと接することで、人間としても大きく成長できるはずで

#### プログラムの特徴について——

研修プログラムは、1年次にプライマリ・ケアを重視し、2年次は選択期間に幅を持たせ、自由に自主的に研修をしてもらうようなプロ

ラムを構成しています。

患者数が圧倒的に多い環境のなか、ファーストタッチによる経験は特に当直時などで不安はあると思いますが、チームで対応するため安心して医療に臨むことができます。

週に一回、月曜日に研修医が論文を選び発表する抄読会など、勉強の機会も豊富にありますし、医療安全や感染制御（感染予防）、地域医療、医療機器の扱い方なども研修に組み込み、多職種と協働して一つひとつの医療の意味やロジックを理解しながら、チーム医療や全人的医療を学ぶことができます。

#### 読者へのメッセージ——

当院では、研修医のみなさんが1名の脱落者もなく、健全な状態で2年間を終えることができること、行きたい診療科が見つかることを大切にしたい研修を目指しています。モチベーション高く、前向きに研修ができるよう病院が一丸となってサポートをし、私自身も研修医の先生方と共に成長していきたいという思いで積極的にコミュニケーションを取っています。

当院でなら幅広い知識や技術だけではなく、医師としての人格の涵養や、自分らしさ、本当にやりたいことが見つかる2年間を過ごすことができるでしょう。まずは気軽に見学に来てください。お待ちしております。



#### PROFILE

出身地 : 宮城県仙台市  
出身大学 : 獨協医科大学  
(1993年卒)  
宝物 : 家族  
座右の銘 : 為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり



#### 国立病院機構 高崎総合医療センター

所在地 〒370-0829  
群馬県高崎市高松町36  
WEB <https://takasaki.hosp.go.jp>

病床数 **485** 床 診療科数 **30** 科

#### 高崎総合医療センターの特徴

消化器病センター、乳腺甲状腺センター、放射線治療センター、画像診断センター、心臓・脳血管カテーテルセンターをオープンし、救命救急センターにも専属の医師を配置し3次救急医療を中心に、チーム医療の充実と更なる医療の向上、地域医療連携を強力に推進させることを目標とした病院です。

### VOICE × 初期研修医

#### 雰囲気良く、やりがいや成長を実感できる研修環境です

初期研修医 2年目 荻野 祐也

自治医大出身者はへき地医療に従事する義務があるため、多彩な診療科が揃い、かつ総合診療科のある当院を研修先を選びました。院内の雰囲気がとても良く、研修医だけの医局があることも魅力です。研修医であっても一人の医師として、また医療チームのリーダーとして頼られる環境は成長を促してくれますし、できることが増えるにつれ達成感も大きくなると同時に、経験を重ねるほど新たな発見もあり、やりがいは尽きません。



#### PROFILE

出身地 佐賀県  
出身大学 自治医科大学 (2019年卒)  
宝物 妻  
座右の銘 ノブレス・オブリージュ (高貴さは義務を強制する)

#### 不安より、医師としての嬉しさ、楽しさが勝っています

初期研修医 1年目 高橋 薫

当院は3次救急病院であり、軽症から重症まで幅広い症例を診ることができます。現在、救急科を回っていますが、できなかったことが少しずつですが着実にできるようになり、日々、成長を実感しています。最初は医師としてやっていけるのか不安がありましたが、できることが増え、仲の良い同期、何でも相談できる指導医や上の先生方がいる環境のお陰もあって、今ではやりがいや楽しさが大きく勝っています。



#### PROFILE

出身地 群馬県  
出身大学 群馬大学 (2020年卒)  
宝物 家族  
座右の銘 努力は裏切らない

# #2 小児科 専門研修プログラムの紹介

国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター

## 小児科専門研修の基幹病院として 高度な専門医療を幅広く経験できる

四国こどもとおとなの医療センター  
総合周産期母子医療センター 副部長・新生児内科医長 久保井 徹

当院は小児科専門研修の基幹施設であり、新生児疾患、感染症、アレルギー性疾患、神経・筋疾患、腎・尿路疾患、循環器疾患、リウマチ性疾患、血液・悪性疾患、内分泌・代謝疾患、救急の



ほか、外科、心臓血管外科、整形外科など、小児の外科系も充実しています。さらに、小児、周産期だけではなく、重症心身障害児(者)の治療も行っており、小児のさまざまな疾患を子どもが成人するまでの連続した医療として幅広く学ぶことができ、小児科におけるサブスペシャリティ分野の専門医取得も可能です。

通常、こうした大きなセンター病院は大学の関連施設であることが多いですが、当院は香川大学、徳

島大学、愛媛大学などの“連携”施設であり、たとえば将来、愛媛県で働きたい人は当院を基幹施設とした3年の専門研修プログラムのうち、2年を当院で、1年を愛媛大学で行うという研修も可能です。当院は小児医療における四国の大学病院や市中病院のハブ病院のような位置づけであり、人的交流も非常に盛んです。さらに、香川大学大学院医学系研究科の連携講座であるため、当院で臨床経験を積みながら博士号も取得可能であり、研究マインドや国際的な教養も習得していただくことができます。

また、当直明けは必ずオフにするなど、しっかり休んで気持ちよく働ける環境もみなさんにとって大きな魅力であると思います。



### PROFILE

出身地 : 香川県  
出身大学 : 香川大学(2002年卒)  
宝物 : 4人の子供と奥さん  
座右の銘 : 苦しいときには  
茨の道を進め



### PROFILE

出身地 : 香川県  
出身大学 : 徳島大学(2003年卒)  
宝物 : 家族  
座右の銘 : コツコツやれば何とかなる

## 小児科医として幅広い実力を獲得。 不安なく医療に臨める働きやすさも魅力

四国こどもとおとなの医療センター  
成育内科系診療副部長・小児感染症内科医長・小児科医長 岡田 隆文



当院は小児の総合医療施設であり、小児の内科系はもちろん、外科系まで豊富な症例を経験することができます。

通常なら、高度で専門的な治療が必要な重症疾患は大学病院に送ることが多いのですが、当院はNICU、GCU、PICU(こどものICU)を完備し、各診療科が揃った専門性の高い医療を提供しているため、他では難しい小児のさまざまな疾患にも対応する全国でも珍しい病院です。小児科専門医取得のために経験すべき全ての疾患はもちろん、各専門分野での専門医取得のための経験も当院だけで十分にできます。

他科との連携も非常によく、当直でも困ったことがあれば「いつでも呼んで」というような、気軽に相談やコンサルができる環境であるため、不安なく積極的に医療に臨むことができます。また、当院は大学の関連施設ではないため、大学や医局による派閥は一切なく、先生方の出身大学はさまざまであり、

とてもフラットな環境であることも特徴です。

私の専門は小児感染症ですが、小児科医のベースは全身を診ることができる総合内科医であり、さまざまな診療科も診ています。幅広い実力を獲得できることはもちろん、自分の興味のある専門性を深く追求できることも、小児科医として当院で研鑽する大きな魅力だと思います。そして何より、子どもたちを笑顔にできる小児科医療は、他科では経験できない医師としての大きなやりがいと喜びを得ることができるでしょう。



国立病院機構  
四国こどもとおとなの  
医療センター

所在地 〒765-8507  
香川県善通寺市仙遊町2-1-1  
WEB <https://shikoku-mc.hosp.go.jp>

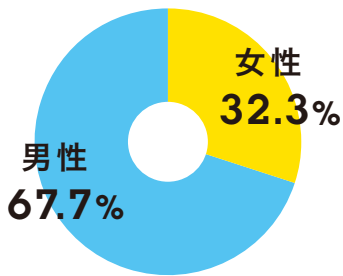
病床数 **689** 床 診療科数 **50** 科

四国こどもとおとなの  
医療センターの特徴

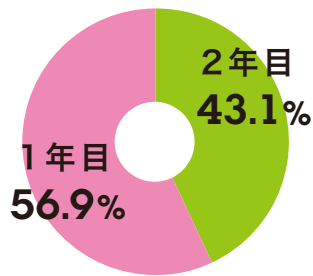
年間約4,000例の新規入院症例がある小児内科系に加えて、年間約2,000例の手術症例がある小児外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科などの外科系診療科や産科・新生児科を中心とした総合周産期母子医療センターにおいて、プライマリから幅広い専門的医療まで、小児医療に関する密度の濃い研修が段階的、総合的に実施できるようになっています。

国立病院機構の臨床研修病院で働く初期研修医 **167**人に聞きました

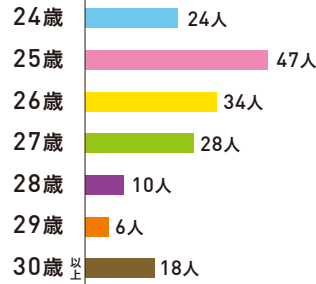
#### Q あなたの性別は？



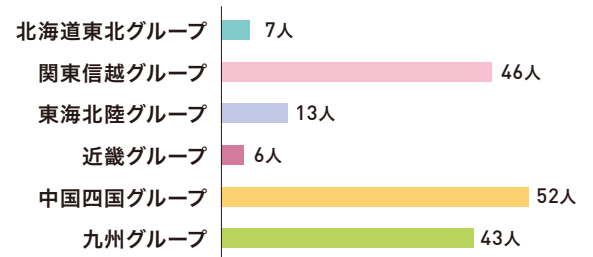
#### Q 研修年次は？



#### Q 年齢は？



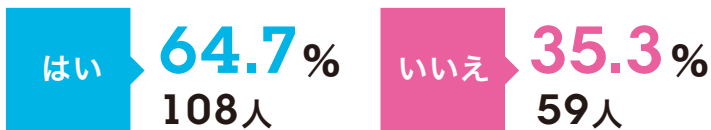
#### Q 勤務している病院のグループは？



#### Q あなたが卒業した医学部は？

旭川医科大学 ... 2人	順天堂大学 ... 2人	千葉大学 ... 3人	浜松医科大学 ... 1人	鳥取大学 ... 2人	九州大学 ... 6人
札幌医科大学 ... 2人	昭和大学 ... 1人	自治医科大学 ... 4人	名古屋市立大学 ... 1人	島根大学 ... 4人	佐賀大学 ... 13人
東北大学 ... 1人	東海大学 ... 1人	新潟大学 ... 1人	名古屋大学 ... 1人	岡山大学 ... 9人	久留米大学 ... 3人
秋田大学 ... 5人	東京医科大学 ... 1人	山梨大学 ... 3人	愛知医科大学 ... 3人	川崎医科大学 ... 3人	産業医科大学 ... 6人
岩手医科大学 ... 1人	東京慈恵会医科大学 ... 2人	信州大学 ... 1人	京都府立医科大学 ... 3人	広島大学 ... 8人	福岡大学 ... 4人
山形大学 ... 1人	東邦大学 ... 1人	富山大学 ... 1人	奈良県立医科大学 ... 1人	山口大学 ... 6人	長崎大学 ... 14人
福島県立医科大学 ... 3人	日本大学 ... 2人	金沢大学 ... 2人	三重大学 ... 3人	徳島大学 ... 1人	大分大学 ... 1人
筑波大学 ... 2人	日本医科大学 ... 1人	金沢医科大学 ... 1人	滋賀医科大学 ... 1人	香川大学 ... 2人	宮崎大学 ... 1人
東京医科歯科大学 ... 1人	聖マリアンナ医科大学 ... 1人	福井大学 ... 2人	大阪大学 ... 2人	愛媛大学 ... 3人	鹿児島大学 ... 5人
慶應義塾大学 ... 2人	北里大学 ... 1人	岐阜大学 ... 1人	兵庫医科大学 ... 3人	高知大学 ... 4人	その他 ... 1人

#### Q 専門研修プログラムで 目指す基本領域はもう決めた？



#### Q はいと答えた方に聞きました 専門研修で目指す基本領域は？

1 内科	27人	11 脳神経外科	0人
2 小児科	8人	12 放射線科	4人
3 皮膚科	3人	13 麻酔科	3人
4 精神科	6人	14 病理	3人
5 外科	12人	15 臨床検査	0人
6 産婦人科	5人	16 救急科	8人
7 整形外科	6人	17 形成外科	3人
8 眼科	1人	18 リハビリテーション科	1人
9 耳鼻咽喉科	6人	19 総合診療科	4人
10 泌尿器科	8人		

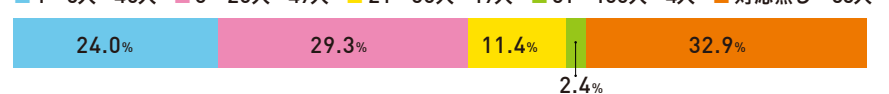
#### Q 平均睡眠時間は？



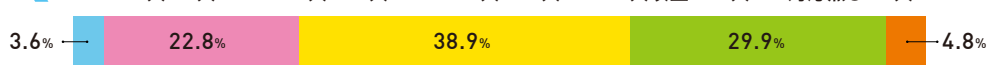
#### Q 月の休日日数は？



#### Q 月の外来診療人数は？



#### Q 月の受持ち入院患者数は？



#### Q 月の当直回数は？



BACK NUMBER × バックナンバー  
過去の「NHO NEW WAVE」が  
WEBサイトから閲覧できます！

[https://nho.hosp.go.jp/education/education\\_nho.html](https://nho.hosp.go.jp/education/education_nho.html)

NHO ニューウェーブ 検索



次号  
予告

# NHO NEW WAVE

vol.44 は  
2021年7月下旬発行予定です。

- SPECIAL.1 先輩研修医インタビュー  
～専門研修・基本領域を選んだ理由～  
NHO初期研修プログラム紹介
- SPECIAL.2 COVID-19の一年